



東松島でもたくさんの参加者が、綿花の摘み取りと収穫祭を楽しみました。

東北コットンプロジェクトに関する詳細は、
下記のウェブサイトをご覧ください。
www.tohokucotton.com/

してボールを集めました。参加者は「今年の種まきで種をもらって家で育てました。綿がはじけて、こんなにきれいなんだと感激しました」（羽田勤務・芳賀）、「年々育ってきているようであれしいですね。仙台や名取の景色も、震災翌年は茶色だったのが、その次は緑色に、今年は稲穂が黄金色になっていて変化を感じます」（仙台空港所長・上原）と、さまざまな気づきがあったようです。

作業が終わると、荒浜のお母さんたちお手製の芋煮や、精米したてのお米でつくった味噌おにぎりの美味しい昼食が待っていました。まさにこの地でつくられた新米をいただき、3年半前に津波被害に遭った土地にお米が実ったことに感慨もひとしおです。3年前から交流を続けている中学生の吹奏楽と合唱、前年もやってきた高校生のチアリーディング、初めて参加して荒浜

の被災の話や聞いた小学校の合唱部によるコーラスなど、地域の子どもたちも収穫祭を盛り上げてくれました。子どもたちの笑顔は生産者にとっても元気のもと。たくさんの方が訪れ、笑顔をお届けすることで、荒浜は前に進んでいます。

一方、東松島農場は2回目の収穫を迎えました。広い農場に整然と並ぶ綿の木は、はじけている実は少ないものの、より畑らしくなっていました。収穫祭はあいにくの雨でしたが、地元の方々による屋台やステージで楽しいひとときを過ごしました。

ひととき笑顔が溢れたのが、ビニールハウスでの綿花摘み体験。ふわふわの綿花を自分の手で摘み取るのは、やはり格別です。

みんなでもっとこの感動を味わいたい。そんな思いがプロジェクトの原動力となっています。

復興に向けて歩み続ける、東北コットン4年目の収穫

東北コットンプロジェクト



津波被害に遭った宮城県沿岸部で塩害に強い綿花を育て、製品にすることで東北の復興を支援する『東北コットンプロジェクト』。秋の収穫も4回目を迎えました。3カ所の栽培地では、それぞれで綿花の摘み取りと、みんなで実りを祝う収穫祭が行われました。

文/宮川真紀 撮影/中野幸英

名取、荒浜、東松島 それぞれの復興を願う収穫祭

東日本大震災から3年8カ月を迎えた2014年11月、「東北コットンプロジェクト」の綿花栽培地、名取市、仙台市の荒浜、東松島市の3カ所で収穫祭が行われました。震災直後から取り組んだ綿花栽培も4年目となり、それぞれの場所で生産者の方々が育てているコットンの実りを楽しみに、プロジェクトメンバーをはじめ大勢の人たちが訪れました。JALグループからは、荒浜に12名、東松島に11名が参加しました。

津波被害が最も大きかった荒浜の栽培地は、まわりに農地が増え、少しずつ復興の兆しを感じられます。農業生産法人「荒浜アグリパートナーズ」として再出発を目指した荒浜の生産者たちは、今年度より本格的な大規模営農をスタートさせました。中心となる稲作は9・3ヘクタール、そのほかに大豆や野菜、それらの直売所の運営も行っています。綿花は、3カ所の畑とビニールハウス1棟で育てました。同社社長・渡邊静男さんは「綿花

をきっかけに会社を立ち上げることができました。皆さんの支援に感謝するために大事にしていきたい」と話します。綿花畑には夏の間、プロジェクトメンバー以外にも地域の小・中学生、高校生、全国から訪れるボランティアや大学生が草取りを手伝ってくれたそうで、「本当に頭が下がります」と、渡邊さん。そのおかげで、前年に比べると木の成長はよく、畑一面に綿の木が育っている光景を見ることができました。この日はまだ開いている綿は少なく、コットンボールを摘み取って、ハウス内で乾燥させることに。300人ほどの参加者が、それぞれの畑に分散

荒浜での収穫の様子。コットンボール一つずつ摘み取ります。収穫祭では熱々の豚汁も振るまわれました。



東北の未来を若者に託す『SKY BATON』第2弾 被災した子どもたちに、学びの機会を提供しよう！

JALグループは、2013年、社会人が若者にバトンを託して、次世代育成と被災地支援に取り組む『SKY BATON』企画を立ち上げ、「きっかけバス」を支援。続く第2弾では、被災した子どもたちの学びを応援します。

日本でも子どもの貧困が問題になっています。学校教育の機会が平等に保障される一方で、塾や習い事などの機会は家庭の状況に委ねられており、経済的困難を抱える家庭で育つ子どもは、学ぶ機会が少なくなりがちです。

東日本大震災は家庭の経済状況に深刻な影響を及ぼし、被災地では多くの子どもたちが、将来の夢のために学ぶ機会を得られにくくなりました。それは、夢や希望を失うことにも繋がりがありません。

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンは、震災によって経済的困難を抱えた子どもたちに、塾や習い事などで利用できる「教育クーポン」を給付することで、子どもたちが未来の展望を描き、夢に向かって学ぶ環境を提供しています。あなたもJALチャリティ・マイルを通じて、子どもたちの夢への歩みを一緒に応援しませんか？ すべての子どもに機会を、すべての子どもに夢を。ご寄付いただいたマイルと同額をJALが加算して活動を支援。皆さまのマイルが2倍の価値で、被災地の未来を切り開くことに役立てられます。



『SKY BATON』東北応援チャリティ・マイル第2弾 「チャンス・フォー・チルドレン」

2015年3月15日(日)まで、1口3,000マイルより受付中。117,000マイルのご寄付(+JALからの同額寄付)で、小学生1名の1年間の教育支援ができます。詳しくは、下記URLにてご確認ください。

www.jal.co.jp/jalmile/use/charity/